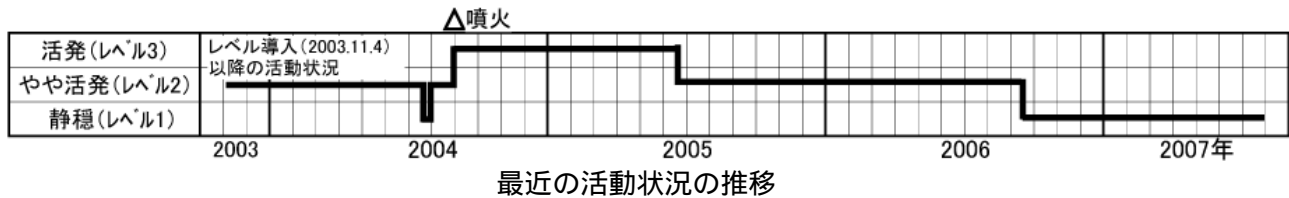


浅間山

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

現在の火山活動度レベルは 1 です。2006 年 9 月 22 日以降、レベル 1 が継続しています。



○ 概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2 - 、表 1）

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上概ね 100～200m で推移しました。

24 日に実施した火山ガス観測では、山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は一日あたり 200 トンと、2006 年 8 月以降やや少ない状態が続いています。

・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3、図 5、表 1）

火山性地震の発生回数はやや少ない状態で経過しました。発生した地震の多くが周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 5 参照）で、震源は求まっていますが、山頂火口直下のごく浅い所に発生していたと推定されます。このほか、周期の短い特徴を持つ BH 型地震（波形例は図 5 参照）が発生しており、求まった震源はこれまでと同様に山頂直下の深さ約 1～2 km に分布しました。また、A 型地震（波形例は図 5 参照）は山頂のやや西側の深さ約 4km 付近に 1 回発生しました。

火山性微動は 6 回発生しましたが、いずれも振幅の小さなものでした。

・地殻変動の状況（図 2 - ）

山体周辺の GPS 連続観測では、特段の変化はありませんでした。このほか、傾斜観測¹⁾や光波測距観測²⁾でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

1) 地面の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、変化が観測されることがあります。

2) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。



図 1 浅間山 山頂部の噴煙の状況
（7 月 28 日、鬼押出し遠望カメラによる）

この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、東京大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ(標高)』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

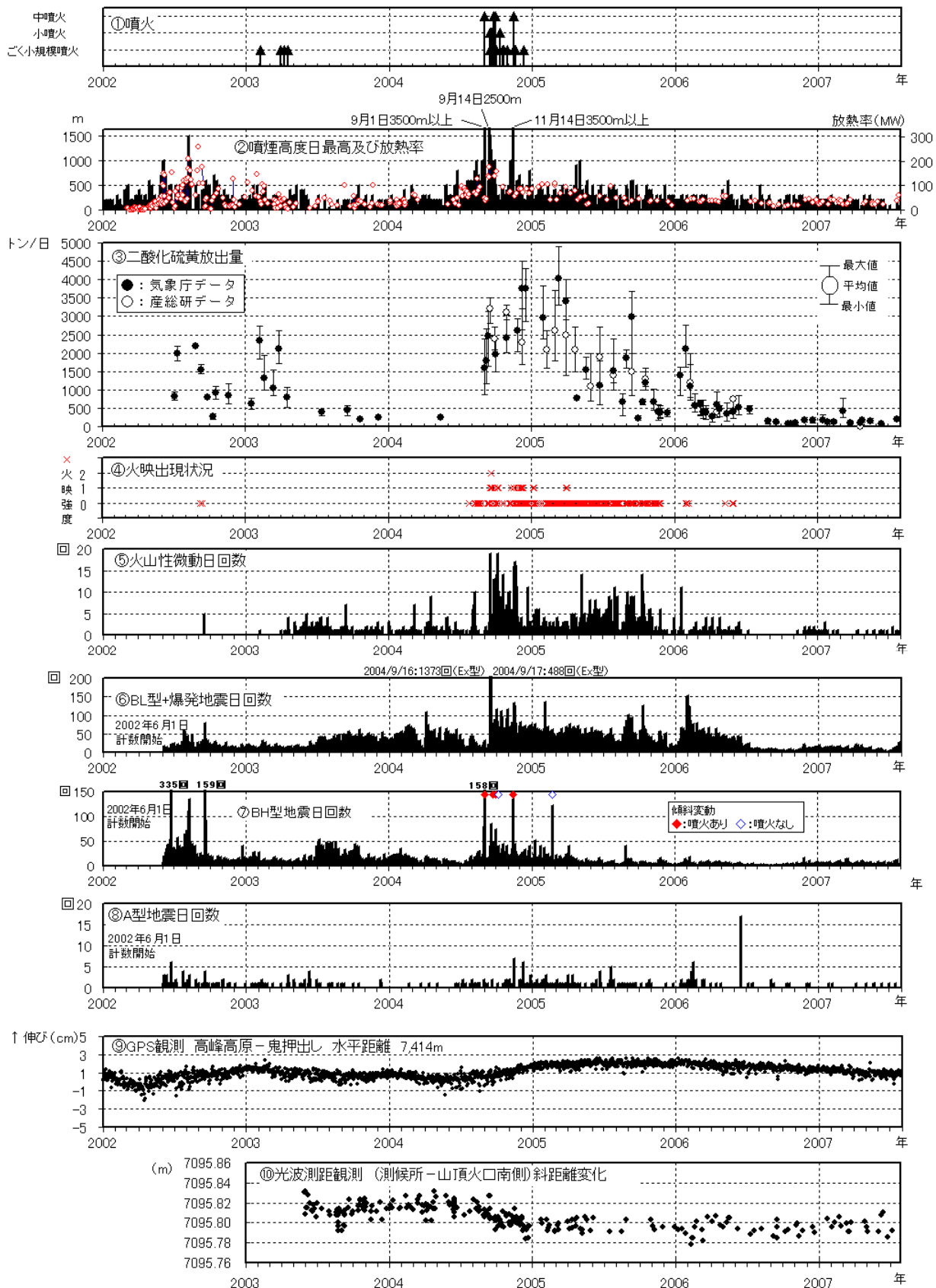


図2 浅間山 最近の火山活動の推移（2002年1月～2007年7月）
産業技術総合研究所による観測データ（産総研データ）が含まれています
地震の種類別（図5参照）に計数を開始した2002年6月1日からのデータを掲載。

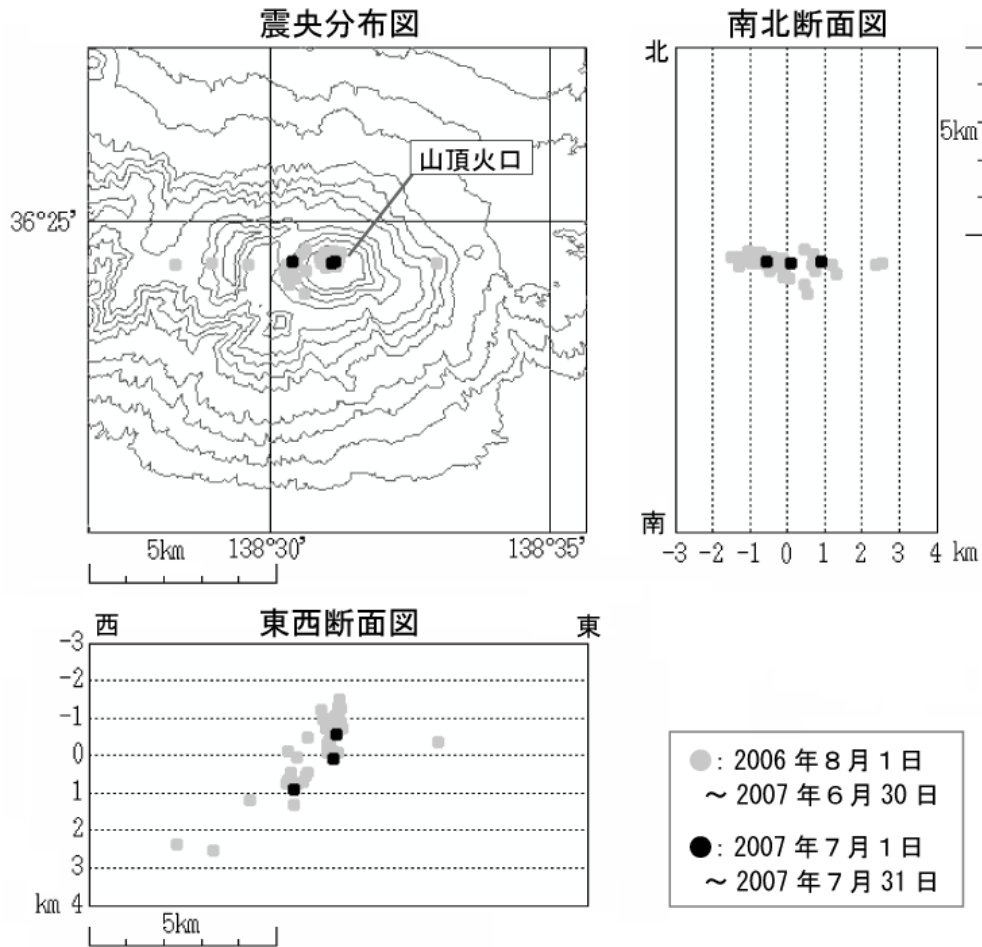


図3 浅間山 火山性地震の震源分布（2006年8月1日～2007年7月31日）

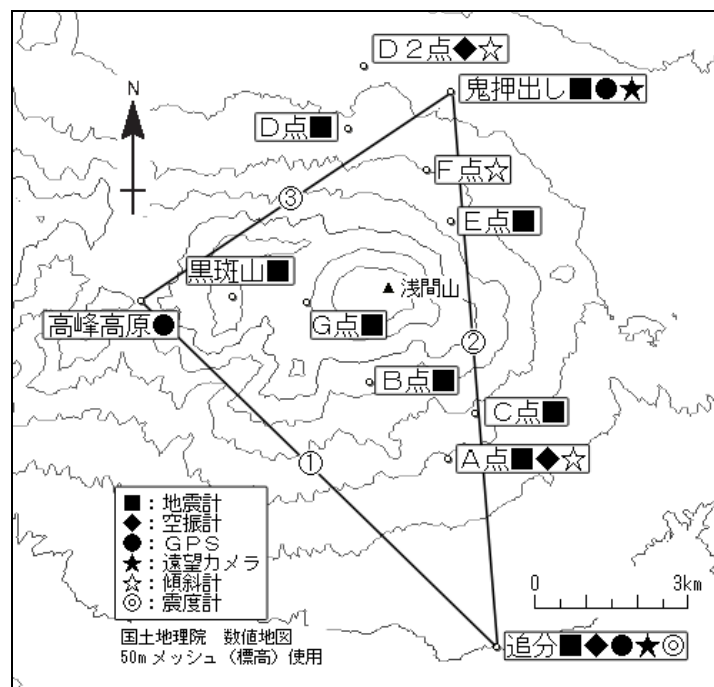


図4 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線 は図2の に対応しています。

表 1 浅間山 2007 年 7 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 3)						微動回数	噴煙の状況 4)		火映強度 5)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		日最高(m)	噴煙量		
1日	0	0	4	5	0	0	9	0	×	×	×	
2日	0	0	3	4	0	0	7	0	×	×	×	
3日	0	0	6	5	0	0	11	0	×	×	×	
4日	0	0	3	2	0	0	5	0	×	×	×	
5日	0	0	3	0	0	0	3	0	100	1	—	
6日	0	0	1	4	0	0	5	0	100	1	—	
7日	0	0	3	3	0	0	6	0	×	×	—	
8日	0	0	8	2	0	0	10	0	×	×	×	
9日	0	0	1	4	0	0	5	0	×	×	×	
10日	0	0	1	8	0	0	9	0	×	×	×	
11日	0	0	5	12	0	0	17	0	×	×	×	
12日	0	0	3	10	0	0	13	1	×	×	—	
13日	0	0	2	11	0	0	13	2	×	×	—	
14日	0	0	1	11	0	0	12	0	×	×	×	
15日	0	0	4	9	0	0	13	0	×	×	×	
16日	0	0	11	3	0	0	14	0	×	×	×	
17日	0	1	2	16	0	0	19	0	×	×	×	
18日	0	0	2	13	0	0	15	0	×	×	×	
19日	0	0	4	10	0	0	14	0	×	×	×	
20日	0	0	6	8	0	0	14	0	×	×	×	
21日	0	0	4	17	0	0	21	1	×	×	×	
22日	0	0	4	15	0	0	19	1	×	×	×	
23日	0	0	1	11	0	0	12	0	×	×	—	
24日	0	0	13	14	0	0	27	0	200	1	—	二酸化硫黄放出量: 200トン/日
25日	0	0	1	26	0	0	27	0	×	×	×	
26日	0	0	2	20	0	0	22	0	×	×	—	
27日	0	0	3	10	0	0	13	0	×	×	—	
28日	0	0	3	13	0	0	16	0	100	1	—	
29日	0	0	4	11	0	0	15	1	×	×	—	
30日	0	0	2	12	0	0	14	0	×	×	×	
31日	0	0	2	12	0	0	14	0	×	×	×	
合計	0	1	112	301	0	0	414	6				

3) 火山性地震の計数基準はB点で最大振幅 $0.1\mu\text{m}$ 以上、S - P時間 3 秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

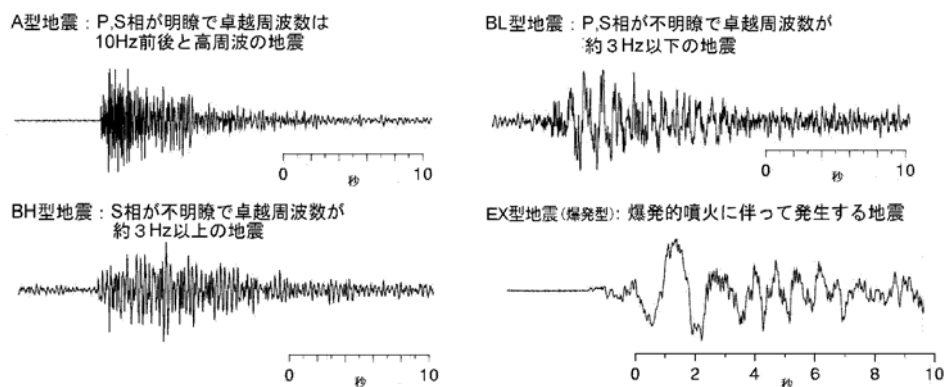


図 5 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

4) 噴煙高度と噴煙量は定時観測（09 時・15 時）の日最大値です。噴煙量は以下の 7 階級で観測しています。
1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
7：噴煙量 6 以上の大噴火。噴煙が山体を覆うくらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

5) 火映の強度は以下の 4 段階で観測しています。
0：肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
-：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）